

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

朝日テレビで放送されている「報道番組キヤスト」という番組で宇陀・名張のMDが取り上げられることとなり、5月27日その取材に同行しました。

とになりました。ようやく笠間集落に着。暫くサルの出現を待っても、残念ながら出てきませんでした。そこで、笠間集落の被

ておられました。耕作者によると、「天井がシカ用のネットであったので、子ザルが編み目から侵入し被害が出た」ということです。

笠間では、山を造成し別荘を分譲している所があります。条件が悪く売れ残った家が廃屋状態で、ハクビシンの格好の棲家になっていて、その周辺では多数のハクビシンが生息しているものと思われ

ます。ハクビシンは頭が入る隙間があれば、どこにでも侵入できるため、民家の屋根裏に入り込み、其処にあるものを利用して巣を作ります。同じ場所に排泄する習性があるため糞尿が蓄積され、そのため、天井が抜け落ちたり、ノミ・ダニが発生する「二次被害」も多く報告されています。ハクビシンは、外来種で生態系に大きな悪影響を及ぼしますの

で、早急な捕獲駆除が望まれます。B群に見切りを付け、ロケ地をA群エリアの青蓮寺湖に移動。残念ながら、A群にも遭遇できず当日の取材は終了。取材は28・29日と続行の予定だそうです。ロケの安全と成功を祈りながらお別れしました。

平野部での比較的大規模な農家では、サル被害なんて大きな問題ではありません。反面、中山間地域では、ほとんどの地域で、サル、イノシシ、シカなどの営農面の被害、精神面の被害、環境面の被害が日常的に存在しています。このように地域的に大きな温度差があり、これが獣害対策の「高いハードル」となっています。これは、農家でない町の人にも言えることです。「まあ可愛い!」「この野郎!」の連発です。近頃は、つつじヶ丘や百合が丘の、菜園にも被害が及んでいます。今後は、互に意識の共有を図り獣害の根絶に努めていかねばなりません。

テレビ朝日取材同行記



害状況を収録することになりました。昨日大きな被害が出た畑が、付近にあるということ

で直行。幸い耕作者が居られ、防除ネットの補修をされ

ておられました。耕作者によると、「天井がシカ用のネットであったので、子ザルが編み目から侵入し被害が出た」ということです。

離れザルは基本的には1、2頭で、常に餌を求めて餌場から餌場へ移動しています。サルは、本来は森林から遠く離れることは少ないが、離れザルは人馴れしていて町の菜園も荒らしています。3、4頭が何の理由もなく一時的に群を離れて行動することがあります。離れザルと見分けがつきにくい、離れザルでないことが多いです。本隊の先遣隊が「しんがり」を務めるサルたちです。なぜか、最近このような「ニートサル」が多くなっているようです。近くには必ず本隊の大きな群れがいると思って間違いないと思います。一匹の離れでも本隊を誘導してくることもありますので、少数だと思いきや油断は禁物です。

「サルに餌を与えない」が基本中の基本です。無意識餌付け。無防備作付け。生ゴミや野菜くずを農地や山際に捨てている。◎収穫の終わった野菜などの残さが残っている。

6月17日、モンキードッグ倶楽部では、研修会「獣害対策について」を、日本でも有数の被害地域、東近江市に出向き開催。◎東近江市の現状。鈴鹿山系からのイノシシ・ニホンザル・ニホンジカ・ハクビシン・アラビグマが出没し、日本でも有数の被害地域である。担当者(小泉氏)によると、東近江市では、イノシシは平野部の住宅地

研修会



研修会場

「モンキードッグはあくまで追い払い活動の一形態」。

まず、農地周辺や集落内の伐採による環境整備と住民自らによる、追い払い活動、不用果樹の整理等の誘因除去を行いサルが出没する条件を低減させることが必要。そのうえで、サルが出没しにくい状況を維持するためにモンキードッグを導入する。モンキードッグはあくまで追い払い活動の一形態。人間による追い払い活動(ロケット花火等)の実施も必須である。

まで生息域を伸ばし農作物・人的被害も深刻である。ニホンジカにおいては県内に6万7千頭、東近江市ではH23年に1、200頭捕獲(24、000頭以上の捕獲が必要)という。サルでは、17群が輻輳して存在し1、000頭が生息。うち、11群約700頭が集落や農地に出没。特に離れザルの対策がつかない。その為、獣害対策への取り組みはトップレベル。◎東近江市のモンキードッグの位置付け。「モンキードッグはあくまで追い払い活動の一形態」。

周囲の伐採環境整備を行っていない地域ではモンキードッグは認めていない。現地視察◎緩衝地帯「田畑の周りの山林や竹やぶがキープポイント」田畑の周りに手入れの行き届かない竹やぶや山林があれば、棲み家や隠れ場所になるので追い払いは成功しない。「たんぼ」のすぐ横の藪に逃げ込めば安全。これでは何の対策も効かない。緩衝地帯としての山際の整備や、集落内にある移動経路となる竹やぶは伐採する。これだけで出没は格段に少なくなる。また、出没してきても奥山の方までの追い払いが可能となる。東近江市では、広大な緩衝地帯を設置し、エリア内に羊を放牧し写真「これにより、近くの動物が侵入できない。」

テキサスゲート

幼稚園児や家族連れなどが訪れるようになり、常に人の気配や声により、野生動物との棲み分けが自然に成り立つ」と、地域住民。管理は地域で施行しているが・・・。「今後、緩衝地帯の維持管理が問題である」と、市関係者。

宇陀・名張のMDは・宇陀市・名張市をまたぎ広域的に活躍していることで全国的に有名です。朝日テレビのクルーは3名で、取材目的は宇陀・名張地方のサルの被害状況、MDの活動状況、その防除対策などが主なもの



は、この頃は檻の中で耕作している状態です。竹藪付近の道路では、サルのタケノコ食痕や糞が多数見受けられました。笠間集落を歩いていてハクビシンの多いのに驚

きました。道ばたで生後間もない子供を3頭も見かけました。

「サルに餌を与えない」が基本中の基本です。無意識餌付け。無防備作付け。生ゴミや野菜くずを農地や山際に捨てている。◎収穫の終わった野菜などの残さが残っている。

6月17日、モンキードッグ倶楽部では、研修会「獣害対策について」を、日本でも有数の被害地域、東近江市に出向き開催。◎東近江市の現状。鈴鹿山系からのイノシシ・ニホンザル・ニホンジカ・ハクビシン・アラビグマが出没し、日本でも有数の被害地域である。担当者(小泉氏)によると、東近江市では、イノシシは平野部の住宅地

